

＜本時の目標＞ ・安全に実験を行うためのルールや、実験器具の正しい操作方法を身につけることができるようにする。

＜本時の展開＞（2/20時間）

	指導項目 ＜学習内容＞	期待する生徒の学習活動 ＜生徒の活動＞	○発問・指示 ☆支援 ・指導上の留意点 ＜教師の活動＞	評価 ＜評価方法＞【観点別】
導入			安全に実験を行うために、理科室でのルールや、実験器具の正しい操作方法を身につける必要があることを伝える。	
展開	ガスバーナーの構造を知る。 ガスバーナーの正しい操作手順を確認する。	- プリントを基に、安全に実験を行うためのルールを確認する。 - 全員がマッチを使えるよう、練習する。 - ガスバーナーを分解し、構造がどのようなになっているのか確認する。 - ガスと空気の量を調節することの大切さを知る。 - 教科書 p.53 のガスバーナーの使い方を音読する。 - ガスバーナーを操作しながら手順を確認する。 - グループ内で、互いに正しく操作できているか確認し合う。	- プリントを基に、安全に実験を行うためのルールについて説明する。 ①服装を整える。 ②机には必要なもののみ置く。 ③理科室では暴れない。 ④器具を机の中央に置く。 ⑤実験は立って行う。 ⑥小さな事故でもすぐに報告する。 ⑦実験終了後、机の水拭きと手洗いをを行う。 ○理科ではマッチをよく使います。全員がマッチを使えるように練習の時間を取ります。最低、一人一回はマッチに火をつけてください。 - 火は正しく取り扱えば必要以上に怖がることはないことを伝える。 - 時間は10分間取る。 - 苦手な生徒、自信のない生徒は、グループの中でうまく擦れた生徒の真似をするよう伝える。 ☆怖くてマッチを擦れない生徒に対して、手を添えて何回か一緒に擦り、手の動きを確認することで恐怖心を取り除くようにする。 ○ガスバーナーを分解して、どのような構造になっているのか確認します。 - 二人に一台、ガスバーナーを渡す。 - 演示実験で、ガスと空気の量を調節することの大切さを示す。 ○教科書 p.53 を読み、実際に火はつけませんが、ガスバーナーを使いながら操作手順を確認してください。 - グループで正しく操作できているか確認し合うよう伝える。 - 後日パフォーマンステストを行うことを伝える。	マッチを使うことができる。＜観察＞ 【技能・表現】 ガスバーナーの正しい使い方を身につけている。＜観察＞ 【関心・意欲・態度】
まとめ	ガスバーナーの使用上の注意事項を確認する。	ガスバーナーを使うときの注意事項を確認する。	○ガスバーナーを使うときに注意することはどのようなことですか。 - 燃えやすいものを近くに置かない。 - 顔を近づけない。 - 炎を大きくしすぎない。	

＜本時の評価＞

	自然事象への関心・意欲・態度	観察・実験の技能・表現
学習活動における具体的な評価規準	ガスバーナーの正しい使い方を身につけようとしている。	マッチを使うことができる。
A「十分満足できる」状況の具体例	ガスバーナーのしくみを理解し、正しい使い方を身につけようとしている。	安全に気をつけて、マッチを使うことができる。
B「おおむね満足できる」状況の具体例	ガスバーナーの正しい使い方を身につけようとしている。	マッチを使うことができる。
C「努力を要する」状況の生徒に対する手立て	マッチやガスバーナーに触れ、慣れることにより、火への恐怖心を出来るだけ小さくするようにする。	

<板書計画>

2章 物質のすがた

1 節 物質の性質

○実験を行う上での注意事項

①服装を整えて観察・実験を行う。

なぜ?⇒制服や髪が燃えたり, 焦げたり, 薬品がつくため。

②観察・実験時には机の上を整理し, ノートなどの必要最小限のもの以外は机の中にしまう。

なぜ⇒実験のスペースを取るため。

③理科室では, 休み時間であっても悪ふざけや走り回ったりすることのないようにする。

なぜ⇒薬品, 器具などを倒したりしてしまうため。

④器具は机の中央に置く。倒れやすいものは倒しておく。

なぜ⇒器具の転倒・落下や破損などによる事故を防ぐため。

⑤実験は原則として, イスを机の下にいれ立って行う。
なぜ⇒いざというときに逃げられるようにするため。

⑥どんな小さな事故でもすぐに報告する。

なぜ⇒時間が経ってから危険なことが起こるため。

⑦実験が終了したら, テーブルを雑巾で水ぶきする。また, 必ず手を洗う。

なぜ⇒後片付けのときに薬品がはねているかもしれないため。